

みなさんの話し合いが、とても充実していて、司会者の涼斗さんをはじめ、書記の土屋さんも、仲間の意見をしっかりと聞いて、発言がつながるように、分かりやすく示してくれました。にぎわちまち公社の白橋さんも、みんなのフレッシュなアイデアがすばらしく、話し合いも活発に意見を言う姿がみんなの力を感じたとおっしゃっていました。また、参観された5名の先生方は、みんなが「テーマ」や「願い」に立ち戻って話す姿や、仲間の意見を取り入れて、共通点を見出したり、そこから意見を発展させたりする姿がすばらしかった。とおっしゃっていました。

【振り返るポイント】

① 発言の仕方：「～さんの意見の～について・・・」など、自分の立場を明らかにしながら、仲間の意見を取り入れた発言ができていたか。

② どうやったたら、意見がなかったり、納得のいく提案をまとめたりすることができたのだろうか。

(1) 3つの提案の説明を受けた話し合い

さん：特産物は高齢者の方が作っているなら、中学生との交流もあると思う。しかし、2・6・8班の提案だと、高齢者の方と中学生のみの関わりで、間の年齢層の方との交流は生まれられないのではないか。また、SNSだと、直接会話ができないのではないか。

さん：特産物を作っているお年寄りとは関われるけど、作っていない方とは、関わりが生まれられないのでは？

さん：SNSで発信するのは、手軽でよい。商品化するなら、それなりの規模が必要。お年寄りと中学生だけでは、実現が難しいのではないか。

さん：販売することで、交流できるのでは？

さん：販売だけでは、点で終わってしまう。長く交流することで、十年後も元気な陽南地域になるのでは？

さん：1・4班のビンゴ大会で、年齢別に分けると、私達の願いである「人とのつながり」が生まれられないと思う。みんなと一緒にやったらどうか。

さん：インスタに上げた人達とは、交流がもてるし、企画を知っている人は見ると思うけど、それ以外の方がインスタを見るのか。陽南地域だけだと、規模が小さいから、特産物になるのか。

さん：課題点だけだと、くつつけるのは難しい。共通点はないか。内容面というよりは、一部でもよいので、くつつけられないか。

(2) 周りで話し合う

(2) 周りで話し合った後

さん：歩きながら清掃し、清掃が終わったらビンゴで、ビンゴの景品が特産物。

さん：ビンゴだと、クリアしないと景品がもらえないので、スタンプラリーにして、より多くの場所を巡れるようにして、歩きながらごみを拾うなどして、全部のスタンプを集めて、全部歩き終わったら、特産物をもらえる。

(白橋さんのアドバイス)

(班での話し合い)

(3) 白橋さんのアドバイスを受けて、提案をまとめる班での話し合い

さん：特産物づくりは時間がかかる。インスタグラムは30代女性がよく見ること。高齢者と中学生のみの交流が課題となっていることが分かった。そこで、陽南地域の文化についてもっと調べてみるとよいと考えている。

さん：他のPTの案を取り入れて、清掃活動は毎日できるのでよい。人を集める方法として、チラシで高齢者の方を集めて、SNSでその間の人達に広めて、たくさんの人と交流ができるようにしたい。河原町風の案を取り入れて、歴史的な中山道とかを歩けばよいと思う。

さん：走ろうはやめて、歩くことにして、全世代に参加してもらえようにする。年齢を立て割りにして、年齢ごとに参加人数を決めて、全ての人が参加でき、いろんな人と関われるようになると思う。

(4) まとめ

さん：すでにあるものを使うとか、高齢者の方の料理を食べるとか

課題点をこうしたら、とか、どれかくつつけるとかありませんか？

スタンプラリーの景品は、お金の問題も出てくる。YKのように、ポイントで競うようにする。点数を楽しむようにする。スタンプラリーで歩くとお腹がすくので、高齢者の方の料理を食べる。